

庁議の概要

開催日 平成 22 年 6 月 28 日 (月)

◎項 目

- 1 大雨情報について【危機管理部】
- 2 口蹄疫対策について【農業振興部・危機管理部】
- 3 各部局等の動向について【各部局等】
- 4 その他

◎内 容

1 大雨情報について【危機管理部】

危機管理部から大雨情報について説明を行った。

【概要説明】

- ・6月26日(土)の朝から日曜日の朝まで、県下市町村に大雨洪水警報が発令された。
- ・高知市の山間部や本山町、大豊町では、降雨量が500ミリを超えたが、人的被害、物的被害はなかった。公共交通機関は運行を見合わせた区間があった。
- ・県道では3カ所土砂崩れがあった。また、県道栗山大津線などでは冠水による通行止めが4カ所となっている。市町村では、佐川町、津野町で土砂崩れによる通行止めが発生しているが、いずれも迂回路があるため、影響はない。
- ・大雨による自主避難が本山町で2世帯3名、土砂災害警戒情報による自主避難が大豊町大田口で8世帯12名であったが、いずれも解消している。
- ・河川の増水により、今後、公共施設等に災害が出てくる可能性があるため、関係部局は対応をよろしくお願いしたい。

2 口蹄疫対策について【農業振興部・危機管理部】

農業振興部及び危機管理部から口蹄疫対策について説明を行った。

【概要説明】

- ・6月18日、宮崎市において牛の発症を確認してから、新たな発生は見られていない。また、殺処分対象の牛・豚の埋却処分が6月24日に完了し、終息に向けた期待感が高まっている。
- ・都城市、日向市では、移動・搬出制限の解除に向けた清浄性確認検査が始まっており、6月中旬以降、県下全域での解除への対策が始まっている。
- ・ただ、10年前に発生したときは、終息に向かった頃に北海道で発生した例もあり、また、感染力が非常に強く、感染経路も未だ解明されていないことや近隣国の発生状況から、まだ余談を許さない状況である。
- ・本県については、6月27日現在で全頭に異常はないという確認をしている。教育委員会の協力を得て、あかうしの種雄牛の分散飼育場所を旧大柝高校の畜産科実習農場とし、20日には住民説明会も終了して、受け入れを認めていただいた。
- ・宿毛湾港での消毒体制では、NOSAI 四万十の職員や宿毛市職員にも協力いただき、ローテーションを組んでいる。また、高知龍馬空港の福岡便3便の搭乗者の靴底消毒についても今週から実施できるよう

に手続き中である。

- ・なお、靴底消毒のセットは県内の企業が独自に開発をし、現在、特許を申請中であり、これから販売する段階に来ている。シートに水を注ぐだけで靴底を消毒できるキットであるが、使い捨てでそのまま消毒・焼却できるため、簡便で安上がり。宮崎県には無料進呈するという話もある。

- ・その他として、梶原町で毎年行われている四国カルスト高原マラソンについては、感染防止を懸念して中止を決定した。

- ・農林水産省から口蹄疫の防疫措置実施マニュアルが24日に公表された。主なポイントは、異常が見られるという通報から2時間以内には現地で確認し、病変を写真判定するなどの対応をとる。また、疑似患畜と判定されれば、24時間以内に殺処分をして、72時間以内に埋却を終了する。

- ・市町村からは埋却地候補地について一度提出をいただいているが、再調査をお願いしている。

3 各部局等の動向について【各部局等】

総務部が取りまとめた各部局の今週の動きに関する資料を配布の上、概要説明を行った。

4 その他

(教育長)

- ・週末に教員の飲酒運転が摘発された。教頭歴が15、6年の職員であったが、県下では十年以上教頭職を務めている者が100人程いる。このような職員のモチベーションをどういうふうにしていくかが今後の課題となっている。

(知事)

- ・東京事務所については、概算要求や予算編成に向けた情報収集をよろしくお願ひしたい。また、インフラ整備に関して国土交通省に対する情報収集体制の強化をお願ひしたい。今年の予算編成は財政再建ということで、シーリングに従って削っていくことになると思うので、通年のように東京事務所が情報収集をして、霞ヶ関に働きかけることが重要になると思う。ささいな情報が結構重要な場合もあるので、ささいな情報でも連絡いただきたい。

- ・9月議会は諸懸案課題が山積している。併せて、産業振興計画や日本一の健康長寿県構想など、半年間やってみて、微調整する必要があるもの、大きく変更するべきものについては、9月補正予算で対応することが重要になってくる。特に日本一の健康長寿県構想は1年目であり、この3カ月取り組んできて得られた情報をもとに、9月補正予算で対応すべきはするように。また、7月、8月はかなり忙しくなると思うが、産業振興推進部、秘書課、秘書官をはじめ、交通整理をして効率的に仕事をさばっていくように。生煮えのまま議論に突入して、「説明ができなかった」ということがないように、早めに準備をして、「説明がつくかどうか」の検証を繰り返していくことが重要だ。

- ・日本一の健康長寿県構想のPDCAをどのように回していくか。例えば産業振興計画は産業振興推進本部会議を実施し、さらには地域本部において実施することで、何重にもPDCAのシステムができていく。健康長寿県構想もそうあるべき。今年は初年度なので、周知徹底や実行はまだこれからとは思いますが、PDCAをしっかりとこなしていくことが重要だと思うので、ぜひ検討してほしい。